

Multilingual Electronic Newsletter

多言語メールマガジン

かごしま南の風便り



Kagoshima Southern Wind Tidings

VOL.184

▽トピックス

[1 国際交流員のコラム（鹿児島県国際交流員 ウォン・イミン）](#)

春の訪れを告げる「梅」

[2 知事の動き](#)

日越外交樹立 50 周年記念「ベトナムフェア in 鹿児島 2023」を開催しました  
(11 月 23 日)

[3 かごしまの国際交流](#)

シンガポール代表団をお迎えして、「第 21 回鹿児島・シンガポール交流会議」を開催しました(11 月 21 日～23 日)

[4 観光かごしま旬の情報](#)

出水市ツル観察センター

## 国際交流員のコラム

### ●春の訪れを告げる「梅」●

—鹿児島県国際交流員 ウォン・イミン（シンガポール出身）—

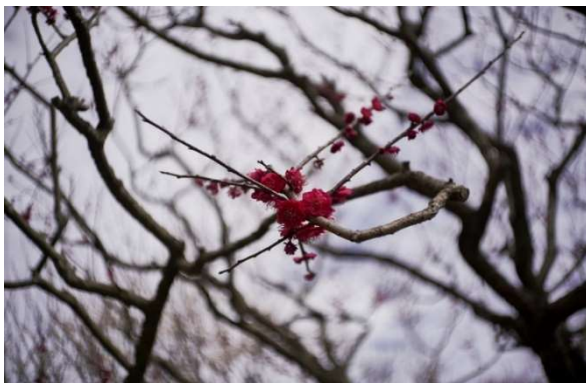
まもなく早春がやってきます！

冬の寒さから春の活気へ、再び暖かさと花の季節になります。先日、穏やかな春に包まれる吉野公園を訪れまして、鮮やかな梅の花を楽しむことができました。

春といえば、桜の季節を思い浮かべる人が多いでしょうね。毎年春になると、桜の見頃、満開や花見会などの話題がどこでもあります。特に海外からの目線で、桜は日本の春を代表する花と言っても過言ではないぐらい認識があります。

しかし、日本の文化と歴史に同じような深く根ざして、似たような花が他にもあることをご存知ですか？

梅は、冬が終わって最初に咲く花として、春の始まりを告げる花です。品種にもよりますが、鹿児島では2月から3月頃に見ることができます。



鹿児島紅梅



桜と同じように、梅にもさまざまな品種があり、色は白から濃いピンクまで幅広いです。また、真っ赤な「鹿児島紅梅」という紅梅もあり、濃梅色をした梅の代表品種です。

梅の花は桜と違って花びらに切れ込みがなく、5枚の丸みを帯びています。そして、強い甘い香りがするのが梅の花の特徴です。



梅の花の起源は、奈良時代に遡り中国から日本に渡来し、その美しさと象徴性により、すぐに人気を博しました。

中国では、梅の花は持久力、勇気、忍耐力、信頼性を意味し、また冬の終わりと春の迎えも表現しています。春を迎えるということは、農繁期も迎えるということなので、繁栄の象徴でもあります。その意味で、旧正月のお祝いによく使われるモチーフの一つです。シンガポールでも、旧正月の時期には梅の花をモチーフにした飾り付けをよく見かけます。

日本では、歴史家によると梅の花を愛でる営みがお花見の原点と言われています。奈良時代から平安時代初期にかけては、梅が春の花として定着していましたが、平安時代中期になるともう桜に取って代わられました。



「桜切る馬鹿、梅切らぬ馬鹿」という梅と桜についての面白いことわざも最近習いました。桜の場合は、枝の切り口から菌が入りやすく腐りやすいため切らない方がいいそうですが、梅の場合は無駄な枝を切らないと樹形が崩れてしまいます。似ていますが、個性に応じた手の掛け方をすることが大切という意味を持っています。確かに梅と桜の見た目は一見似ていて、混同しやすいですね。



吉野公園から出るとき、綺麗な梅の花を最後に振り返りました。梅の次は、順番待ちの桜と続き、その後も多種多様な花の出番が続いていきます。その時をまた楽しみに待ちたいと思います！

## 知事の動き

### ●ベトナム IN 奄美フェアに出席しました（11月11日）●

奄美市の奄美パークにおいて、奄美名瀬ライオンズクラブ主催による「ベトナム IN 奄美フェア」が開催され、来賓としてあいさつをさせていただきました。この日はイベントとして、開会式典の後、奄美在住のベトナムの方々等をパネリストにお招きし、奄美に暮らしてみても感じたことなどについて意見交換するフォーラムが開催されました。

奄美群島日本復帰70周年と、日越外交関係樹立50周年の2つの節目が重なる記念の年に、地元の高校生をはじめ、幅広い年代の方々が参加され、奄美とベトナムとの交流を深めるイベントが開催されることを大変喜ばしく思います。

11月17日から19日は、奄美とベトナムの歌や踊りの披露、お互いの文化を紹介するブースの出展、ベトナム料理の販売など、さまざまな催しが行われました。

今回のフェアの開催を通じて、奄美の皆様とベトナムの方々との相互理解が深まり、今後の奄美とベトナムとの交流がますます発展していくことを願っています。



知事挨拶



展示物



関係者との集合写真



## かごしまの国際交流

- シンガポール代表团をお迎えして、「第21回鹿児島・シンガポール交流会議」を開催しました（11月21日～23日）●

シンガポールのサム・タン元外務担当兼社会・家庭開発担当国務大臣を団長とする代表团を11月21日から23日までの日程でお迎えし、「第21回鹿児島・シンガポール交流会議」を開催しました。この会議は、昭和57年以来、2年ごとに相互の地において、双方の交流促進に向けた協議を行うため開催しています。

交流会議では、経済、観光、文化、青少年交流等、8つの事項について合意しました。シンガポールは世界屈指のグローバル都市であることから、県産品の販路拡大や観光誘客の更なる促進が期待されます。

今回の交流会議を契機として、今後鹿児島とシンガポールの絆がますます強くなることを期待しております。



◀ 会議の様子



集合写真 ▶

## 観光かごしま旬の情報

### ●出水市ツル観察センター●



写真協力：公益社団法人 鹿児島県観光連盟

ねぐらとなっている干拓地の前に立つ展望所で、出水の冬の観光地の中心となっています。毎年10月中旬になると、シベリアから特別天然記念物に指定されているツルの第一陣が渡来し、約1万羽を超えるツルが、3月頃まで越冬します。

2階展望室や屋上展望所からはツルの優雅な舞や、エサをついばむ姿が観察できます。

出水のツルは、主にナベヅルとマナヅルで、ここ数年は1万羽以上の羽数が確認されています。これだけの数が人里近くで越冬するのは世界中でも出水平野だけといわれており、田んぼにいる親子連れのツルや大空を舞うツルは圧巻です。

優雅なツルを間近で見られるため、全国から観光客で連日にぎわっています。

